

認知症高齢者やその家族を社会全体で支える仕組みが必要 事故賠償に対する救済制度の創設を

かじや 質問

2007年に愛知県で起こった認知症高齢者の方が電車にはねられて死亡した事故で、介護をしていた家族に対して鉄道会社が720万円の損害賠償を求めた裁判がきっかけとなり、認知症の方が起こした事故やトラブルによる損害賠償請求に対して、救済制度を導入する自治体が増えてきているとのことです。本市でも導入する考えはあるのか見解をお聞きます。

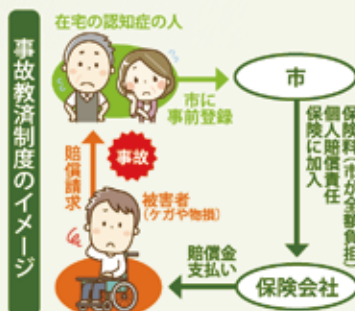
健康福祉部長 答弁

本人や家族の不安を軽減する仕組みは必要と考えています。認知症の方が損害賠償を問われた場合の救済制度も含めて効果的な認知症高齢者等への支援方法の検討を行っていきます。

かじや 意見・提言

わが国の認知症高齢者の数は2025年には高齢者の5人に1人に当たる約700万人に達するとされる中(グラフ参照)、認知症の方が「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる」社会の実現が求められています。

しかし、認知症の方が事故を起こした場合に、介護している



家族に対して高額な賠償金が請求されるリスクがあれば、在宅での介護をためらったり、行動を必要以上に制限することにつながり、「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」という理念が根幹から揺らぎます。認知症の方やその家族のリスクを社会全体で支える意味でも、事故による損害賠償請求に対して、公費で民間保険に加入する救済制度の導入を提案しました。

市民役所の窓口業務について 民間ノウハウの活用で「迷わない」「待たない」窓口を

市が検討を進めている窓口の民間委託については、民間事業者のノウハウを活用し、市民が庁内の様々な窓口に出向くことなく必要な手続きを行え、繁閑にあわせ窓口数をフレキシブルに増減させることにより、お待たせすることのない窓口の運営などサービスの向上が期待できるとのことです。

これまで行政だけでは解決できなかった課題も、民間事業者の力で解決できるのであれば、積極的な導入を図っていくべきであり、今後、オンライン化の進展や枚方市駅周辺③街区に開設予定の窓口との整合性を図りながら、窓口業務のサービス向上に努めるよう提案しました。

コロナ禍における図書館の課題について 新しい生活様式に対応するため 宅配サービスや電子書籍の活用を

市立図書館は、昨年の緊急事態宣言時に、ほぼすべてのサービスを停止しましたが、今後、新しい生活様式への対応が求められる中、これまでの来館や滞在だけを前提とした機能を見直し、宅配サービスや電子書籍など非接触型のサービスを充実するよう提案しました。

この他、以下の項目についても質問しました(令和2年度)

● 学校への木製の机・椅子の導入について ● 新型コロナウイルス感染症対策について(給付金・支援金等の業務について、新しい生活様式への対応と事業の見直しによる財源確保について、情報発信の在り方について) ● 新しい生活様式に対応した投票所の在り方について ● 外郭団体等の経営状況等の点検・評価に係るその後の取組について ● 職員団体(労働組合)との交渉について ● 街かどデハハウスについて ● ポンプ場の民間委託について ● ポンプ場の職員配置と公舎の在り方について

かじや知宏 プロフィール

経歴

昭和43年9月12日生まれ。阪保育所、殿山第二小学校、第三中学校、枚方高校、龍谷大学文学部社会学科社会福祉学専攻を卒業。(株)報知新聞社での11年間の勤務を経て行政書士に。大阪府行政書士会副委員長、同企画広報部副部長、同枚方支部副支部長、NPO法人ひらかた環境ネットワーク会理事、中司宏事務所政策スタッフ等を歴任。

現在

かじや行政書士事務所代表、コスモスおおさか幹事、枚方高校同窓会校友会副会長等。

趣味

読書、スポーツ観戦(プロ野球、格闘技等)、神社仏閣巡り、観劇(宝塚歌劇団等のミュージカルなど)

市政に関するお問い合わせは

発行元 かじや知宏 〒573-0171 枚方市北山1-23-57
☎ 090-3705-9393 ✉ tomohiro@t-kajiya.com

大阪維新の会枚方市議会議員団
〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20 枚方市役所本館4階
☎ 072-841-1221(代)

LINE公式アカウント

右のQRをスマートフォンやタブレットのLINEアプリで読み取り「友だち追加」ボタンを押してください。

駅前報告を行っています～650回継続中～
午前6:20頃～8:30頃に駅前「議員報告」の配布を行っています。

LINE
友だち登録を
お願いします



大阪維新の会 枚方市議会議員団
枚方市議会議員

まっすぐ市政改革

かじや 知宏

議員報告



地域配布版第31号(通算147号)
令和3年春発行



維新市議団で新型コロナ対策の要望書を市長に提出

感染拡大の防止をはじめ 独自支援策やワクチン接種体制の整備など 安心安全につながる継続的な対策を

大阪維新の会枚方市議会議員団では、新型コロナウイルスの感染拡大による「緊急事態宣言」が大阪府にも発出された1月14日、「新型コロナウイルス感染症対策に関する要望書」を、伏見隆市長に提出しました。

コロナ対策については、これまでも議会質問や要望書の提出を通じて、市の対策強化につなげてきましたが、全国的に感染拡大の波が止まらず、医療現場がひっ迫するとともに、1年間に及ぶ自粛などの社会活動の制限によって、市民生活や事業活動に大きな影響が出ています。このような厳しい状況の中、新たな課題への対応を含め、市民の安心安全につながる継続的な対策に取り組んでもらうため、今回、特に重要な項目について要望しました(右欄参照)。

私からは伏見市長に対し、国や府の支援制度の間に

ある市民や事業者について市独自の支援を行うことや、市民の関心が高いワクチン接種について関係機関等と連携し万全の体制で臨むよう提案しました。

新型コロナ対策に関する主な要望項目

▼関係団体との連携や全庁的な協力体制によるワクチン接種体制の整備 ▼制度の間にあるエッセンシャルワーカーや市内業者への市独自の支援 ▼公共施設の休館やイベントの中止または解除の際のガイドラインの策定 ▼延期となった「はたちのつどい」の年度内開催及び新成人や事業者の被った損害等への補償 ▼医療従事者確保のための登録制度等の構築 ▼陽性や濃厚接触となった児童・生徒への差別防止と休学中の学習フォロー体制の構築—など。

8月緊急議会で検査体制の強化について提案

地域の医療機関等で検査が可能に

昨年の8月緊急議会において、今後、さらに感染が拡大した場合でも、市民が必要な時に検査が受けられるよう、地域の医療機関等に協力を依頼し、かかりつけ医でPCR検査が実施できるようにするなど検査体制のさらなる強化について提案しました。

その後、保健所を介さなくても市内に5か所ある「地域外来・検査センター」や地域の医療機関で直接PCR検査が受けられるようになり(右図参照)、検査数の増加やよりスムーズな受診につながるなど体制の充実が図られました。

咳や発熱など 感染したかも? と思ったら

まずは **かかりつけ医** や

お近くの **医療機関** に **必ず** 電話で相談

土・日曜、夜間で閉まっていたり、どこに聞けばいいかわからないとき
新型コロナ受診相談センター(帰国者・接触者相談センター)
24時間受付 電話相談 ☎072-841-1326 ☎072-841-5711*

日常生活での感染予防法、体調・健康に関する一般的な相談は
市専用相談窓口 平日9時～17時30分 ☎072-841-1253 ☎072-841-5711*

※ファックスは平日17時30分以降及び土・日曜、祝日受付分は翌日(平日)に回答